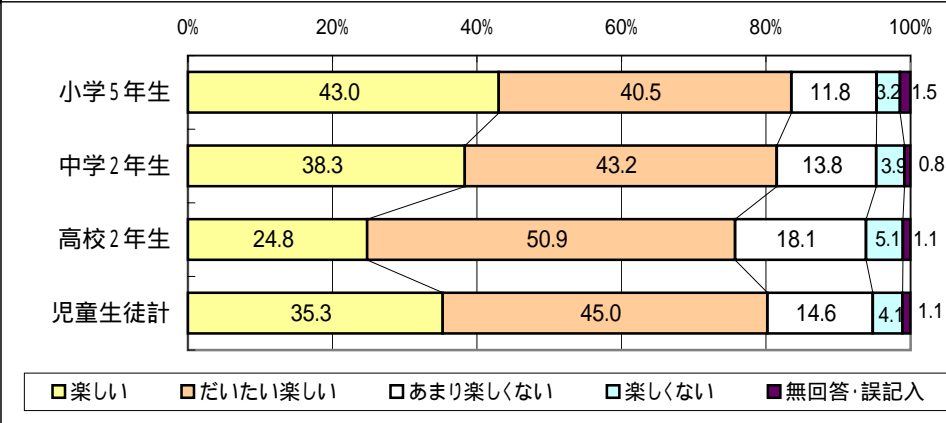


学校生活

1. 学校の楽しさ 【小学5年生...問14】 【中学2年生...問14】 【高校2年生...問14】

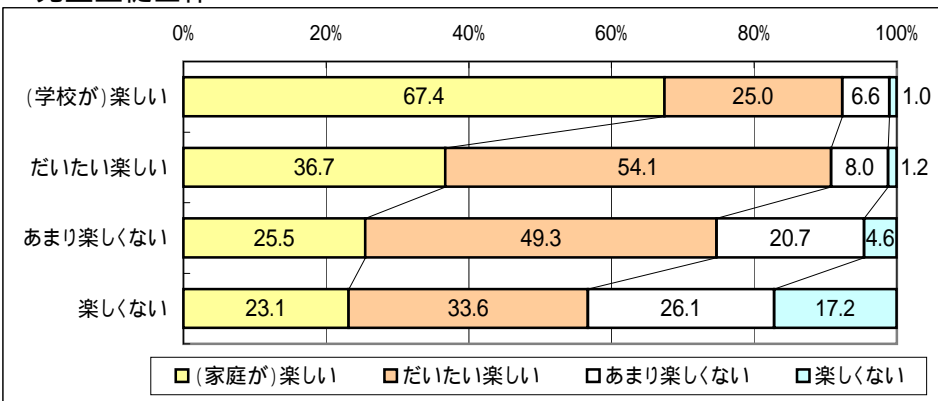
あなたは、学校生活が楽しいですか。次の中からあてはまるものを一つ選んで番号を教えてください。

- 1 楽しい 2 だいたい楽しい 3 あまり楽しくない 4 楽しくない



「楽しい」+「だいたい楽しい」は、小学5年生で83.5%、中学2年生で81.5%、高校2年生で75.7%となっている。高校2年生については、「あまり楽しくない」+「楽しくない」が23.2%で、約4人に1人の割合である。

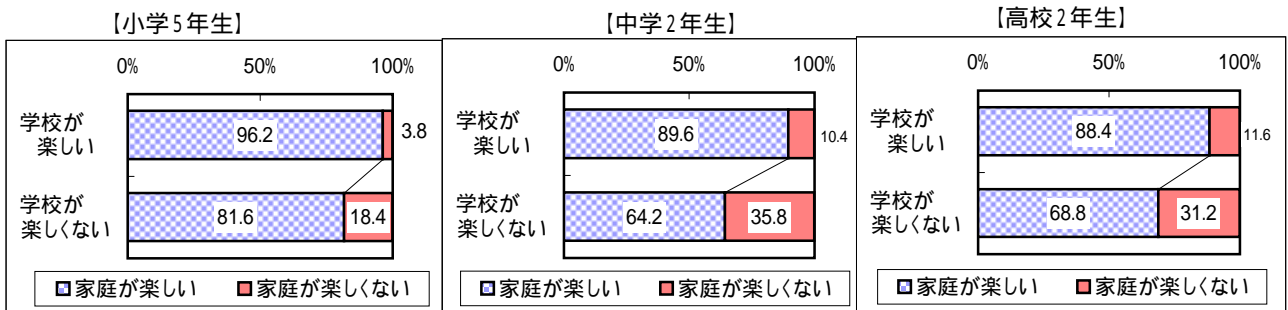
「学校の楽しさ」と「家庭の楽しさ」(家庭生活)との関係 児童生徒全体



「学校が楽しい」と答えた児童生徒は、67.4%が「家庭が楽しい」と回答している。「学校が楽しくない」と答えた児童生徒で、「家庭が楽しい」と回答したのは、23.1%にとどまっている。「学校の楽しさ」は、「家庭の楽しさ」と相関関係がある(0.1%水準で有意)。

学年別

学校生活、家庭生活をそれぞれ「楽しい」(楽しい+だいたい楽しい)と感じる群と、「楽しくない」(あまり楽しくない+楽しくない)と感じる群に分けて、学年別にクロス集計をした。



学校が楽しい:n=903
学校が楽しくない:n=163 [***]

学校が楽しい:n=874
学校が楽しくない:n=190 [***]

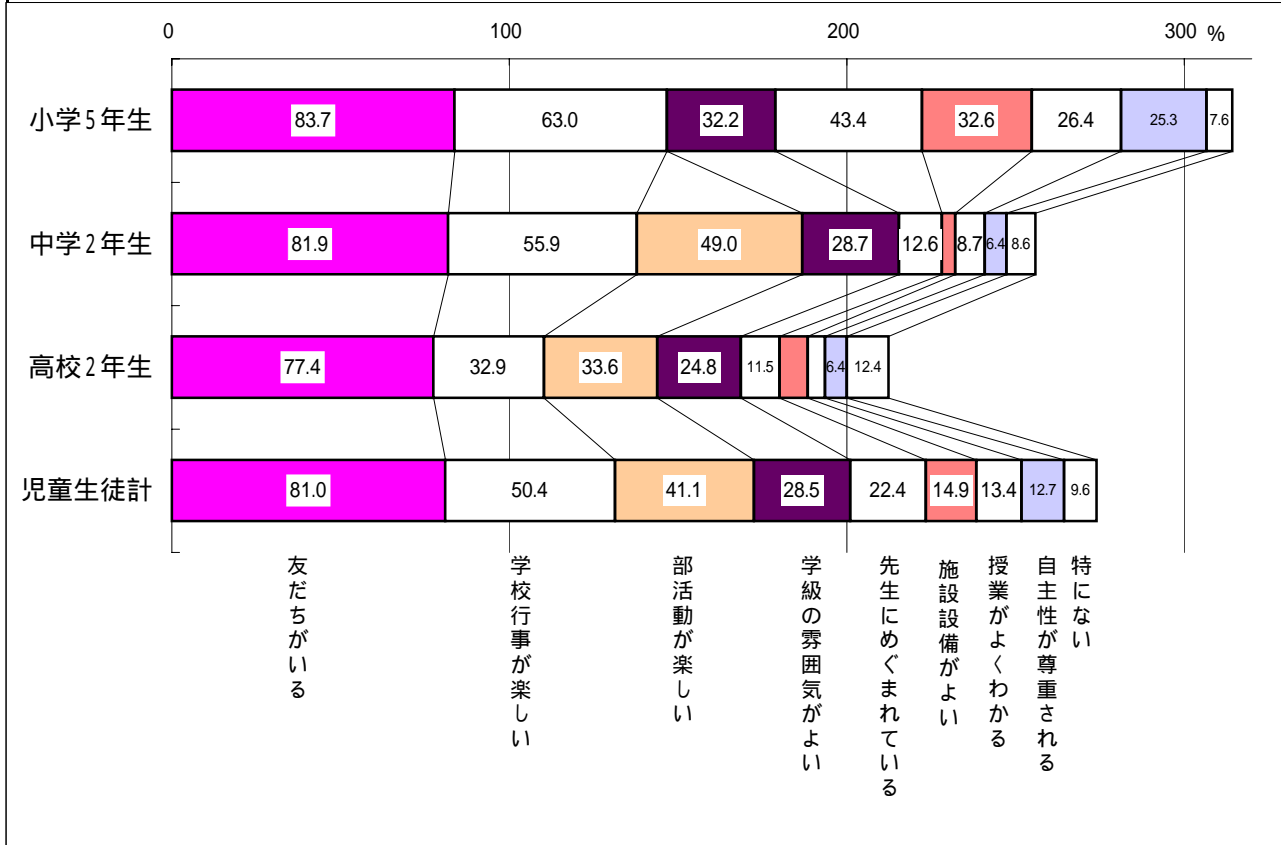
学校が楽しい:n=903
学校が楽しくない:n=163 [***]

小・中・高とも、「学校が楽しい」と答えた児童生徒で「家庭生活が楽しい」と答える割合は、「学校が楽しくない」と答えた児童生徒で「家庭が楽しい」と答える割合を大きく上回っている。

2. 学校生活満足の理由 【小学5年生...問15】【中学2年生...問15】【高校2年生...問15】

学校生活であなたが満足しているのはどういう点ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでつけてください。

- | | |
|-------------|-------------------------|
| 1 授業がよくわかる | 2 生徒の自主性が尊重されている |
| 3 施設や設備がよい | 4 先生にめぐまれている |
| 5 友だちがいる | 6 部活動が楽しい(小学5年生は除く) |
| 7 学級の雰囲気がよい | 8 学校行事(修学旅行, 体育祭など)が楽しい |
| 9 特にない | |



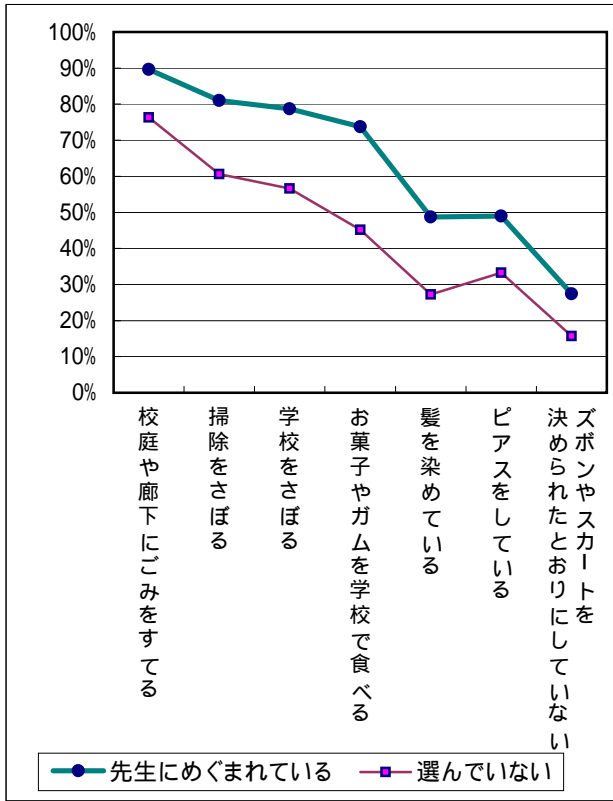
小・中・高ともに最も多いのが、「友だちがいる」(83.7%, 81.9%, 77.4%)である。次いで、小学5年生では、「学校行事が楽しい」(63.0%), 「先生に恵まれている」(43.4%)の順となっている。中学2年生では、「学校行事が楽しい」(55.9%), 「部活動が楽しい」(49.0%), 高校2年生では「部活動が楽しい」(33.6%), 「学校行事が楽しい」(32.9%)の順となっている。

「先生との相性」と「友だちの行為に対する感じ方」「授業中の行為に対する感じ方」(規範意識)との関係

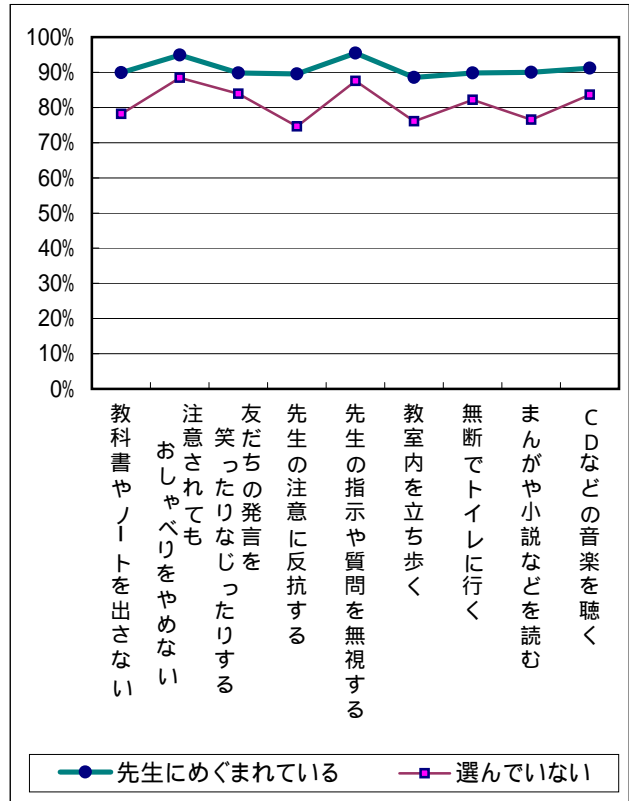
「先生との相性」は「学校生活満足の理由」の「先生にめぐまれている」を選択したものと、そうでないものに分けた。「友だちの行為に対する感じ方」の各項目については、「いやな感じがする」(とても+かなり)群と、「気にならない」(あまり+まったく)群に分けた。「授業中の行為に対する感じ方」の各項目については「悪いと思う」(とても+かなり)群と、「悪くないと思う」(あまり+まったく)群とに分けた。

各項目における意識

【友だちの行為に対する感じ方...いやな感じ】

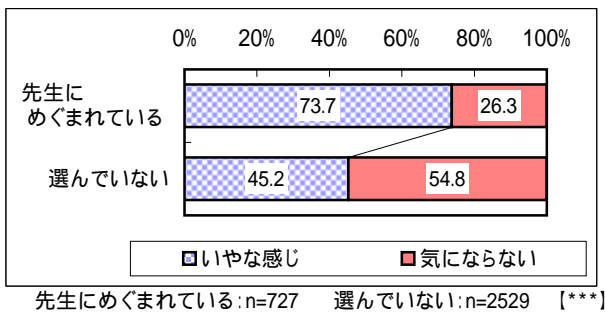


【授業中の行為に対する感じ方...悪いと思う】

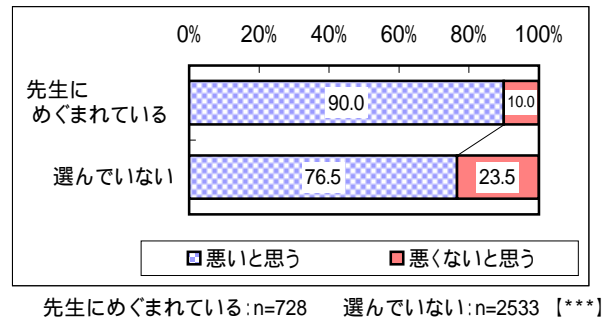


顕著な傾向を示した項目

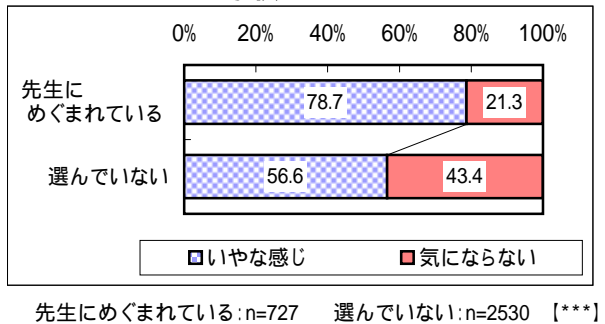
【お菓子やガムを学校で食べる】



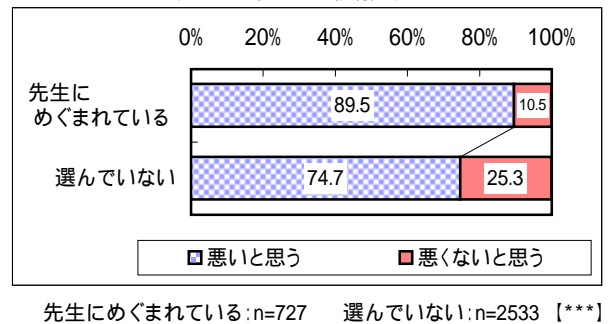
【まんがや小説などを読む】



【学校をさぼる】



【先生の注意に反抗する】



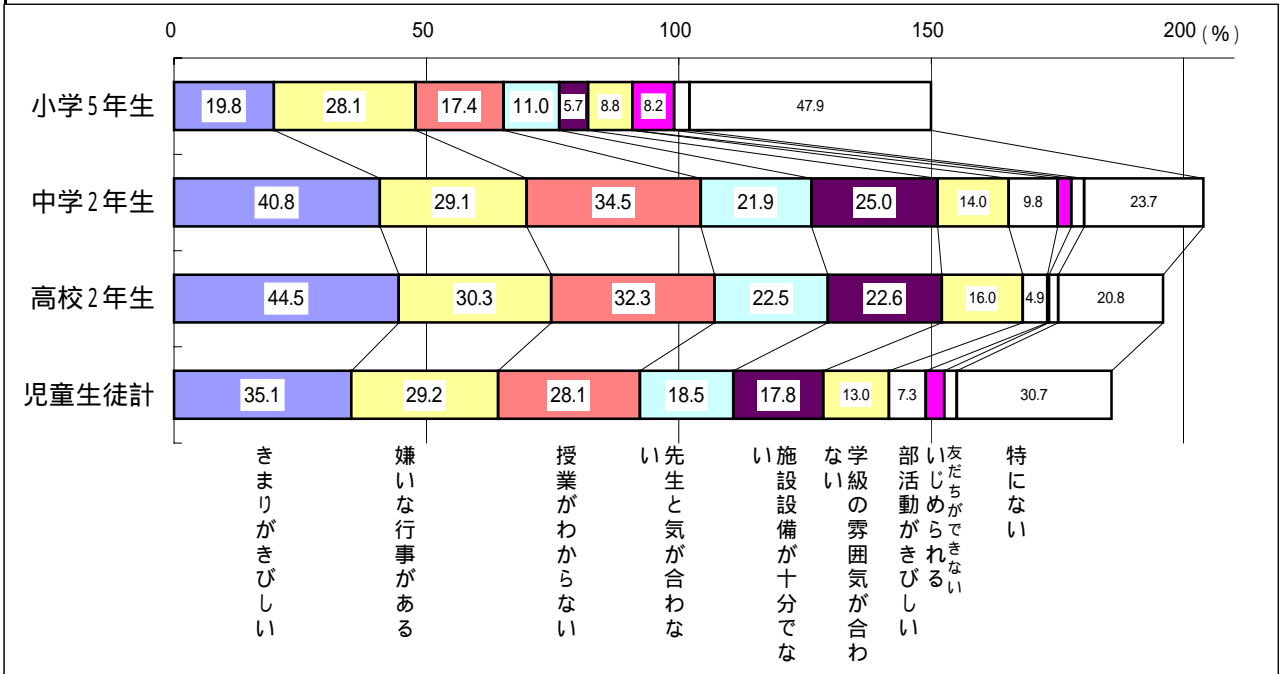
「友だちの行為に対する感じ方」, 「授業中の行為に対する感じ方」のすべての項目で, 「先生にめくまれている」と感じている児童生徒がそうでない児童生徒に比べて, 逸脱行為に対して「いやな感じがする」「悪いと思う」割合が高い(全項目において有意差が認められた)。

先生との信頼関係の中で, 児童生徒の規範意識がはぐくまれることが期待できる。

3. 学校生活不満の理由 【小学5年生...問16】 【中学2年生...問16】 【高校2年生...問16】

あなたが学校生活で不満に思っているのは、どういう点ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで をつけてください。

- 1 授業の内容がよくわからない 2 きまりがきびしい 3 施設や設備が十分でない
- 4 先生と気が合わない 5 友だちができない 6 部活動がきびしい(小学5年生は除く)
- 7 学級の雰囲気合わない 8 嫌いな行事がある 9 いじめられる 10 特にない

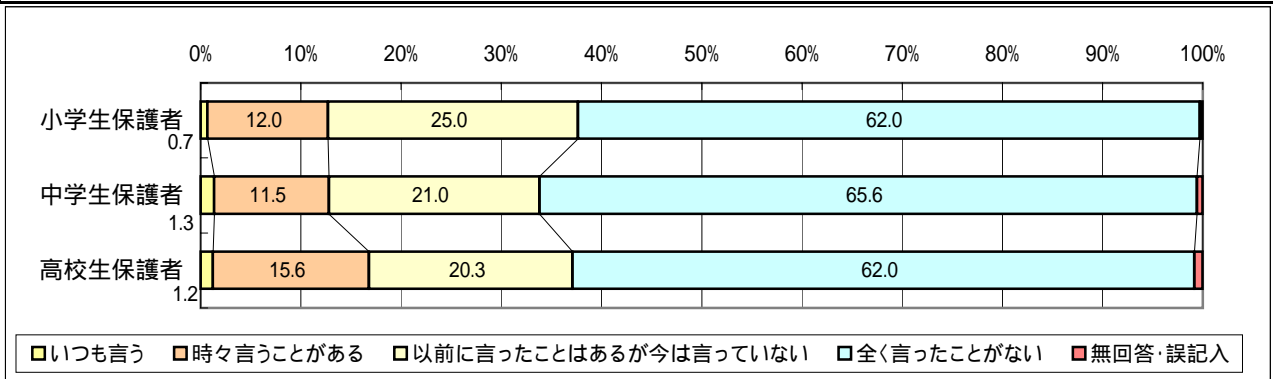


小学5年生の半数近くがで「特にない」(47.9%)と答えている。不満の理由としては、「嫌いな行事がある」(28.1%)、「きまりが厳しい」(19.8%)の順となっている。中学2年生・高校2年生ではともに、「きまりが厳しい」が最も多く(中学2年生40.8%, 高校2年生44.5%), 次いで「授業の内容がよくわからない」(中学2年生34.5%, 高校2年生32.3%), 「嫌いな行事がある」(中学2年生29.1%, 高校2年生30.3%)の順となっている。

4. 学校に行きたくないことの頻度 【保護者...問14】

子どもさんは「学校へ行きたくない。」と言ったりすることはありますか。次の中からあてはまるものを一つ選んで をつけてください。

- 1 いつも言う 2 ときどき言うことがある
- 3 以前に言ったことはあるが今は言っていない 4 全く言ったことがない

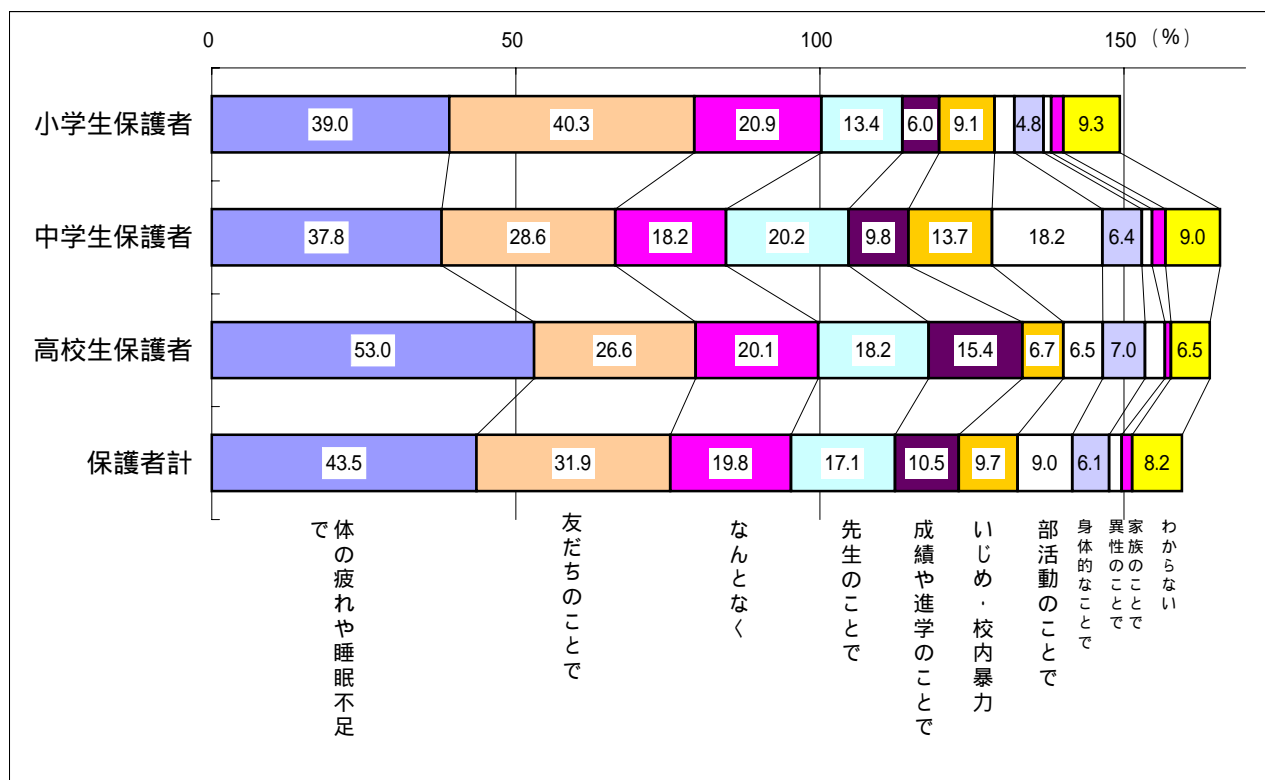


「いつも言う」「ときどき言うことがある」「以前に言ったことはあるが今は言っていない」を合わせると、全体で36.3%であり、小・中・高ともほぼ同じ傾向にある。

5. 学校に行きたくない理由 【保護者...問15】

問14で(1),(2)または(3)を選んだ方のみお答えください。子どもさんが学校に行きたくない理由は何ですか。次からあてはまるものを二つまで選んでをつけてください。

- | | | |
|--------------|------------|-------------|
| 1 体の疲れや睡眠不足で | 2 友だちのことで | 3 学校の先生のこと |
| 4 成績や進学のこと | 5 いじめや校内暴力 | 6 外見や性格のこと |
| 7 異性のこと | 8 部活動のこと | 9 家族のこと |
| 10 身体的なこと | 11 なんとなく | 12 理由はわからない |



学校に行きたくない理由で最も多かったのは「体の疲れや睡眠不足で」(43.5%)、次いで「友だちのことで」(31.9%)、「なんとなく」(19.8%)の順となっている。小学5年生の保護者は、「友だちのことで」「体の疲れや睡眠不足で」「何となく」を、中学2年生の保護者は、「体の疲れや睡眠不足で」「友だちのことで」「学校の先生のこと」を、高校2年生の保護者は「体の疲れや睡眠不足で」「友だちのことで」「何となく」をそれぞれ上位3項目に選択している。

高校生保護者の「体の疲れや睡眠不足で」(53.0%)、「成績や進学のこと」(15.4%)は、他校種と比べて高い割合を示している。

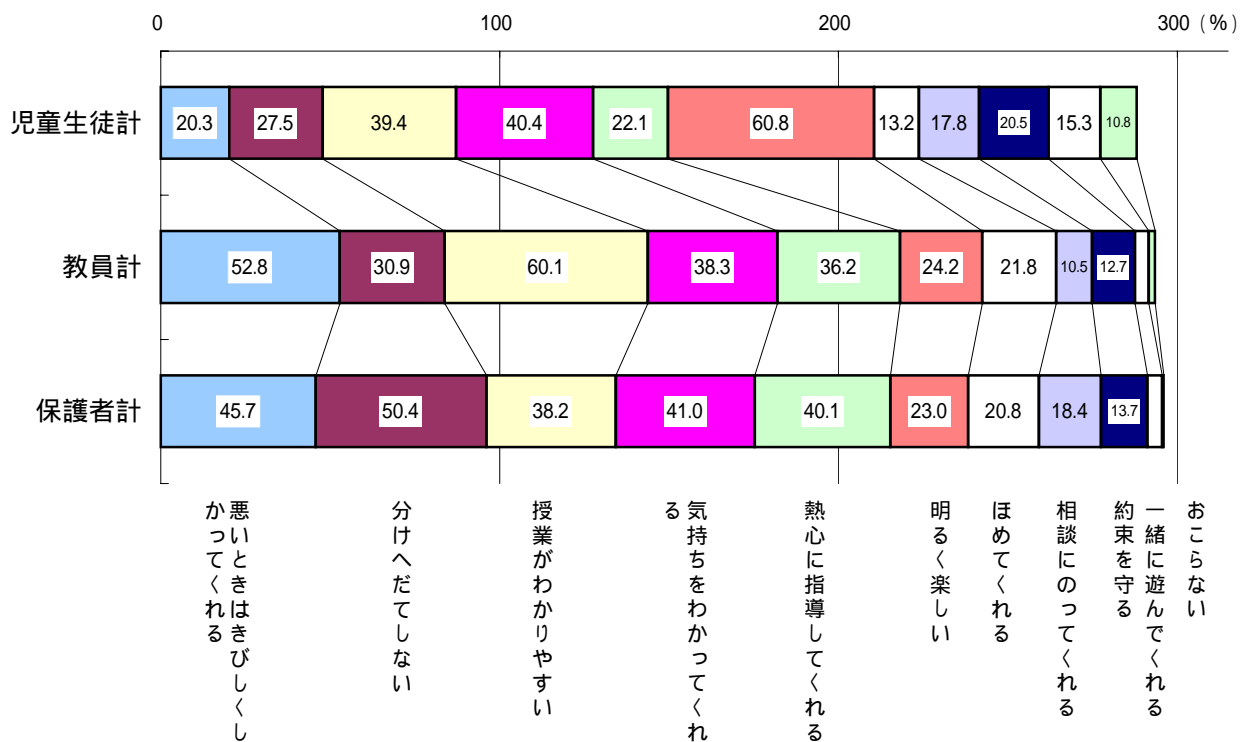
中学生保護者の「部活動のこと」(18.2%)は、他校種と比べて高い割合を示している。

6. よい先生 【小学5年生...問17】 【中学2年生...問17】 【高校2年生...問17】

【教員...問10】 【保護者...問17】

あなた(クラスの児童生徒, 子どもさん)にとって, よい先生とはどんな先生ですか。次の中からあてはまるものを三つまで選んで をつけてください。

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1 明るく楽しい先生 | 2 悪いときはきびしくしかってくれる先生 |
| 3 おこらない先生 | 4 気持ちをわかってくれる先生 |
| 5 授業がわかりやすい先生 | 6 悩みの相談にのってくれる先生 |
| 7 一緒に遊んでくれる先生 | 8 分けへだてをしない先生 |
| 9 約束を守る先生 | 10 よいことをしたときにほめてくれる先生 |
| 11 熱心に指導してくれる先生 | |



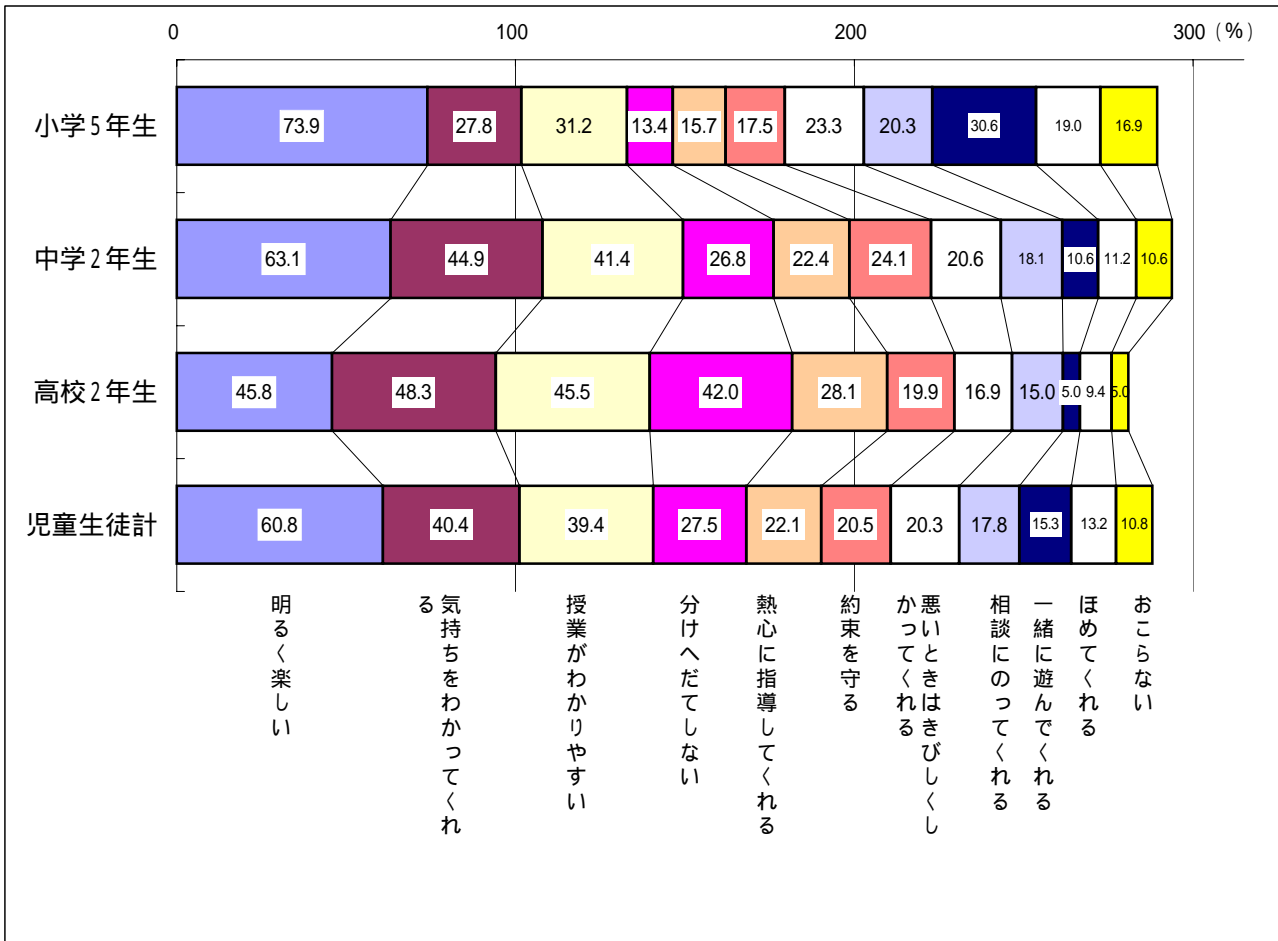
児童生徒, 教員, 保護者に共通して回答の割合が高いのが, 「気持ちをわかってくれる先生」(児童生徒 40.4%, 教員 38.3%, 保護者 41.0%), 「授業がわかりやすい先生」(児童生徒 39.4%, 教員 60.1%, 保護者 38.2%), 「分けへだてをしない先生」(児童生徒 27.5%, 教員 30.9%, 保護者 50.4%)の 3 項目である。

一方, 回答の割合が高い項目で三者に差があるのが「明るく楽しい先生」(児童生徒 60.8%, 教員 24.2%, 保護者 23.0%), 「悪いときはきびしくしかってくれる先生」(児童生徒 23.0%, 教員 52.8%, 保護者 45.7%), 「熱心に指導してくれる先生」(児童生徒 22.1%, 教員 36.2%, 保護者 40.1%)である。児童生徒にとっては「明るく楽しい先生」「気持ちをわかってくれる先生」「授業がわかりやすい先生」が, 教員としては「授業がわかりやすい先生」「悪いときはきびしくしかってくれる先生」「気持ちをわかってくれる先生」が, 保護者にとっては「分けへだてをしない」「悪いときはきびしくしかってくれる先生」「気持ちをわかってくれる先生」がよい先生の条件の上位 3 項目である。

「悪いときにきびしくしかってくれる先生」は, 「よいことをしたときにはほめてくれる先生」よりも割合が高く, 児童生徒・教員・保護者とも約 2 倍前後である。「おこらない先生」は児童生徒・教員・保護者とも最下位である。

学校生活

校種別



小学5年生で、最も回答の割合が高いのが「明るく楽しい先生」(73.9%)で、次いで「授業がわかりやすい先生」(31.2%)、「一緒に遊んでくれる先生」(30.6%)の順である。

中学2年生で、最も回答の割合が高いのが「明るく楽しい先生」(63.1%)で、次いで「気持ちをわかってくれる先生」(44.9%)、「授業がわかりやすい先生」(41.3%)の順である。

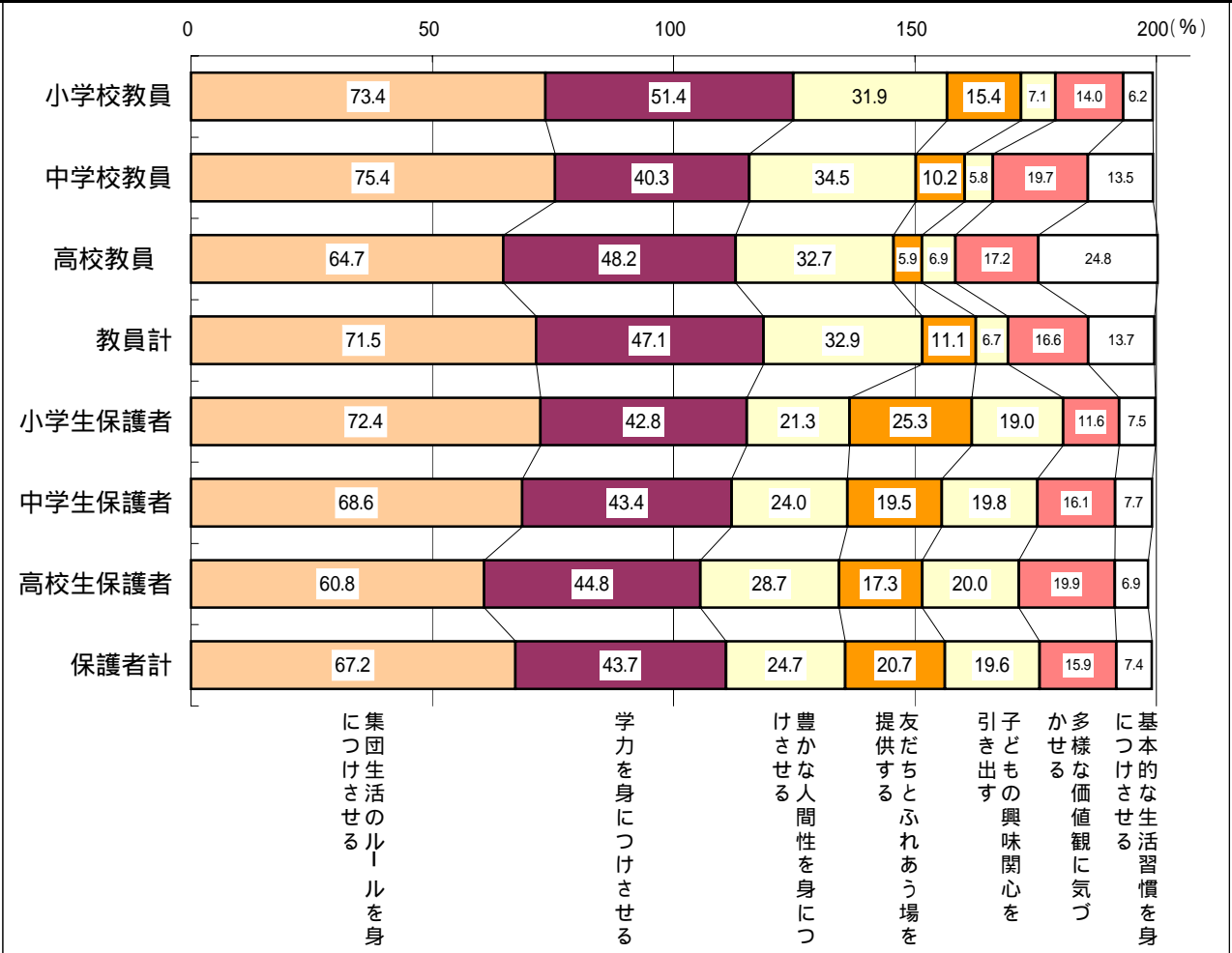
高校2年生で、最も回答の割合が高いのが「気持ちをわかってくれる先生」(48.3%)で、次いで「明るく楽しい先生」(45.8%)、「授業がわかりやすい先生」(45.5%)の順である。

「気持ちをわかってくれる先生」「授業がわかりやすい先生」「分けへだてしない先生」「熱心に指導してくれる先生」は、小・中・高と学年が上がるにつれて、回答の割合が高くなっている。一方、「明るく楽しい先生」「一緒に遊んでくれる先生」「ほめてくれる先生」「おこらない先生」は、小・中・高と学年が上がるにつれて、回答の割合が低くなっている。

7. 学校の役割 【教員...問8】【保護者...問12】

子どもが育つ上で学校はどのような役割を果たさねばならないと思いますか。次の中から二つ選んでをつけてください。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 集団生活のルールを身につけさせる | 2 学力を身につけさせる |
| 3 友だちとふれあう場を提供する | 4 多様な価値観に気づかせる |
| 5 基本的な生活習慣を身につけさせる | 6 子どもの興味関心を引き出す |
| 7 豊かな人間性を身につけさせる | |



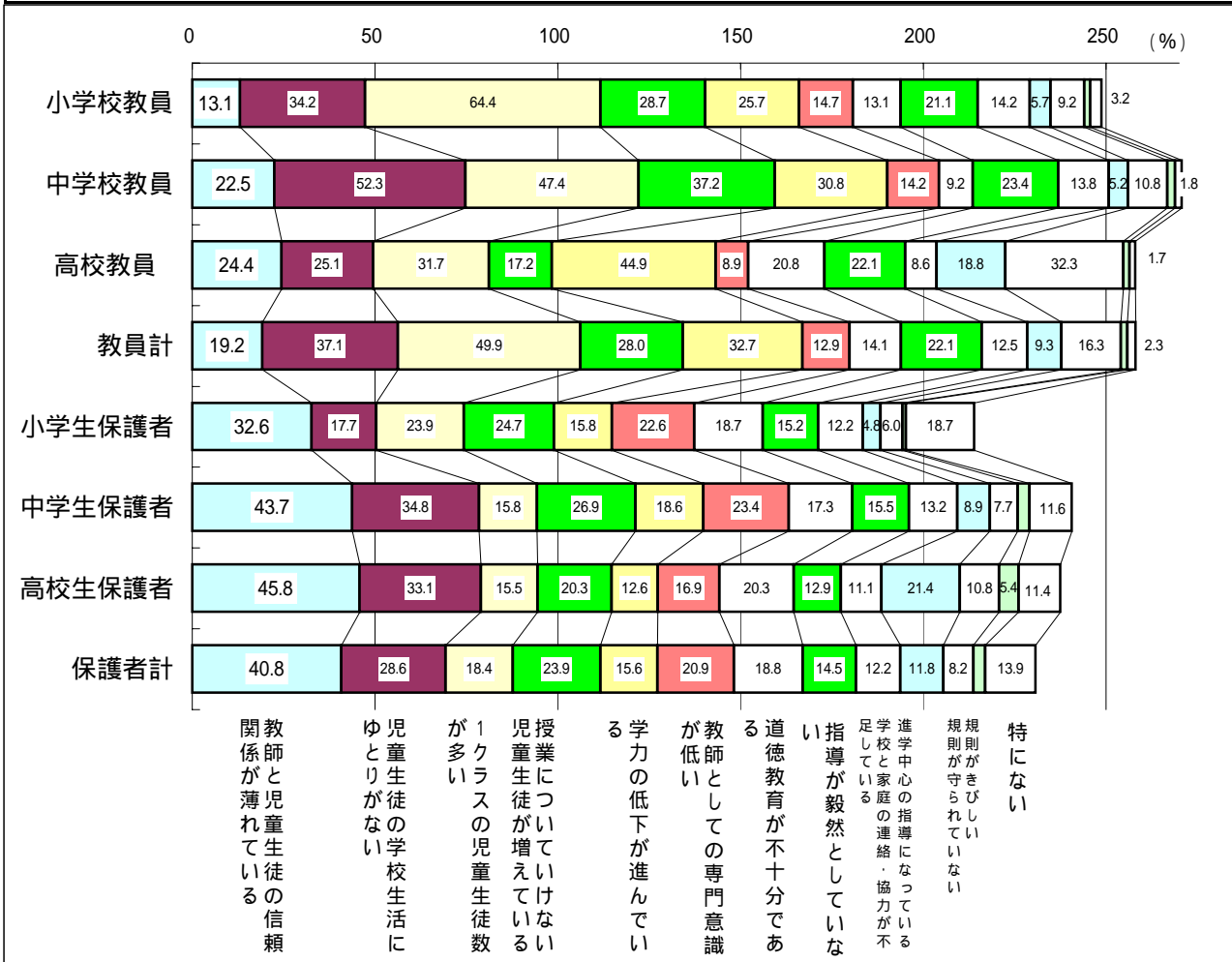
学校が果たすべき役割として、教員・保護者とも、1番多いのが「集団生活のルールを身につけさせる」(教員71.5%, 保護者67.2%), 次いで「学力を身につけさせる」(教員47.1%, 保護者43.7%), 「豊かな人間性を身につけさせる」(教員32.9%, 保護者24.7%)の順となっている。教員・保護者とも上位3つについては同じような傾向を示している。ただ、小学5年生の保護者については、「友だちとふれあう場を提供する」(25.3%)の回答が3番目である。

「基本的な生活習慣を身につけさせる」ことは、保護者と小学校教員は家庭の役割という認識で一致しているが、中学校と高校の教員は学校の役割と考える者も多くなる。

8. 学校の問題 【教員...問9】 【保護者...問13】

学校について、何か問題だと思う点がありますか。次の中から三つまで選んで をつけてください。

- 1 教師と児童生徒の間の信頼関係が薄れている
- 2 教師としての仕事に対する専門意識が低い
- 3 児童生徒に対する指導が毅然としていない
- 4 授業についていけない児童生徒が増えている
- 5 学校の規則が十分守られていない
- 6 学校の規則が厳しい
- 7 進学中心の指導になっている
- 8 道徳教育が不十分である
- 9 学校と家庭の連絡・協力が不足している
- 10 1クラスの児童生徒数が多い
- 11 勉強や部活動などで忙しく、児童生徒の学校生活にゆとりがない
- 12 学力の低下が進んでいる
- 13 特にない



教員は「1クラスの児童生徒数が多い」(49.9%)、「勉強や部活動などで忙しく、児童生徒の学校生活にゆとりがない」(37.1%)、「学力の低下が進んでいる」(32.7%)の順に多い。校種別では小学校教員の「1クラスの児童生徒数が多い」(64.4%)、中学校教員の「学校生活にゆとりがない」(52.3%)、高校教員の「学力の低下が進んでいる」(44.9%)と、「学校の規則が十分守られていない」(32.3%)は特徴的な回答である。

保護者は「教師と児童生徒の間の信頼関係が薄れている」(40.8%)、「勉強や部活動などで忙しく、児童生徒の学校生活にゆとりがない」(28.6%)、「授業についていけない児童生徒が増えている」(23.9%)の順に多い。

「1クラスの児童生徒数が多い」に関しては、教員が保護者より31.5ポイント高く、「教師と児童生徒の信頼が薄れている」に関しては、保護者が教員より21.6ポイント高く、意識に大きな開きがある。

「授業についていけない児童生徒が増えている」+「学力の低下が進んでいる」は教員60.7%、保護者39.5%、総計44.9%の高い数値になる。教員・保護者ともに授業の理解度・学力などに対する危機意識がうかがえる。